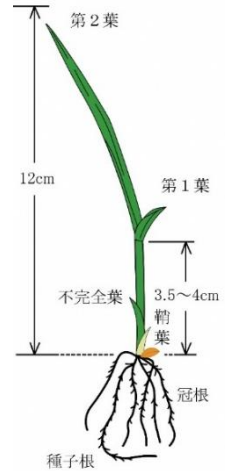


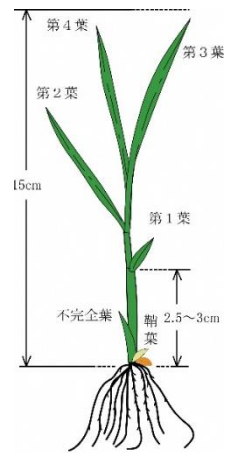
健苗の適期移植と適正な水管理で初期生育を確保！

1 育苗後半の管理 ～適正な温度・水管理と移植前追肥で活着の良い苗に仕上げる～

育苗様式	温度・水管理の留意点	移植前追肥
稚苗・ハウス	①温度管理：日中 15～20℃、夜間 10～15℃（8℃以下にしない） ②硬化期前半 ・午前中早めにハウスの換気を始め、夕方には閉める。 ・灌水は朝に充分行い、夕方は床土が乾燥した場合以外は灌水しない。 ③硬化期後半 ・異常低温時を除き、田植えの5～7日前からは夜間もハウスを開放する。	① 追肥は移植4～5日前に1箱当たり窒素成分で1～2gを箱上から施用する。 ② 露地プール育苗の場合は、落水後に液肥を灌注するか、箱の上まで水を張って肥料を施用する。後者の場合は施用後2日間程度は落水しない。 ③ 施肥後は葉焼けを防ぐため灌水する。 ④ 軟弱・徒長苗の場合は障害が発生する可能性があるため、追肥を控える。
稚苗・露地プール	① 除覆、灌水後は苗が伸長しやすいので、水温の上昇に注意し、必要に応じて水の更新を行う。 ② 霜注意報の発令時等、異常低温が予想される時は速やかに箱上まで灌水する。 ③ 育苗箱を軽くするため移植2日程度前から落水する。	③ 施肥後は葉焼けを防ぐため灌水する。 ④ 軟弱・徒長苗の場合は障害が発生する可能性があるため、追肥を控える。
中苗・二重平張り	① 温度管理 2葉期以降：日中 15～20℃、夜間 10～15℃ ※2葉期までは低温時に不織布で保温し、3葉期以降は不織布を除去し徐々に外気温に慣らす。 ② 水管理 2葉期までは床肩水位とし、3葉期以降は3cm程度の溝水位とする。1～3葉期を通じ、降霜が予想される時や強風時は灌水して苗を保護する。	① 追肥時期および量 1回目：1.5～2.0葉期に1箱当たり窒素成分で1g施用 2回目：田植4～5日前に1箱当たり窒素成分で1～2g施用 ② 葉が黄化してからの追肥は効果がないため遅れずに施用する。 ③ 施肥後は葉焼けを防ぐため灌水する。



移植時の稚苗の生育目標



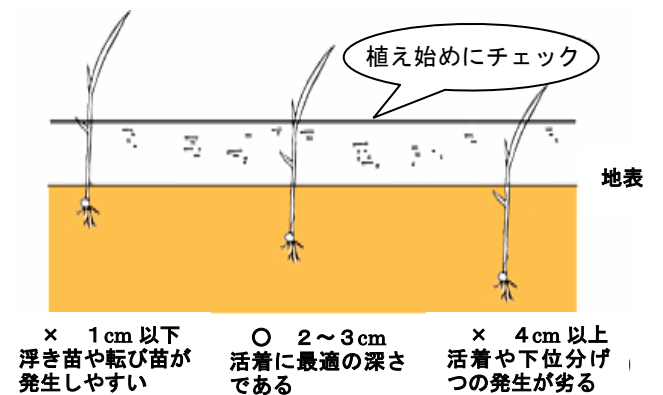
移植時の中苗の生育目標

2 移植適期と移植時の留意点 ～極端な遅植え・早植えを避け、適期に移植しましょう！～

(1) 移植適期および栽植密度のめやす

品種	地域	移植適期	栽植密度	ポイント
つきあかり こしいぶき	平坦地	5月5～10日頃	60株/坪	・早生品種は茎数確保のため遅れずに、コシヒカリは早期出穂を避けるため早すぎないよう、適期に移植する。 ・茎数を確保しにくい地域・品種では栽植密度を60株/坪以上とする。
	中山間地	5月15～20日頃	60～70株/坪	
コシヒカリ	平坦地	5月10日～15日頃	50株/坪	
	中山間地	5月20日～25日頃	60株/坪	

- (2) 稚苗加温・ハウス育苗の場合の育苗日数のめやすは20日程度（露地プール育苗の場合は25日程度）とし、苗の老化を避けるよう計画的に作業を進めましょう。
- (3) 移植作業の良否は活着・初期生育に影響を及ぼすので、下記の事項に留意しましょう。
- ア 植付け本数は1株当たり3～4本とし、過繁茂や細莖化を防止する。
 - イ 適正植付深度（2～3cm）を守る（右図参照）。
 - ウ プール育苗は低温時の活着が劣る場合があるため、好天時を選んで移植する。
- (4) 基肥一発肥料等を使用する場合は、被覆肥料のプラスチック殻がほ場から河川等に流出しないよう、代かきは浅水で行い、田植え前は強制落水せず自然落水で水位調節しましょう。



3 移植後の水管理

- (1) 活着するまでは3～4cmのやや深水とし、保温的水管理で低温や強風による植傷みを回避しましょう。
- (2) 活着後は2～3cmの浅水管理とし、分げつの発生を促しましょう。
- (3) ワキの発生が多い（水田に足を踏み込むと盛んに気泡が発生する）場合は、夜間落水を行い、根の健全化を図りましょう。

4 除草剤使用の留意点

- (1) 除草効果を高めるため、散布後4～5日間は除草剤の種類に応じた水深を確保してください。また、散布後7日間は止水し、落水やかけ流しはしないでください。
- (2) 除草剤に抵抗性のある雑草の発生を避けるため、同一の除草剤や同じ作用性の成分を含む除草剤の連年施用は避けましょう。
- (3) 散布時の留意点
- ア 植え傷みにより活着が遅れている場合は、イネの生育回復を待ってから散布します。
 - イ 異常低温又は異常高温時や強風時は、薬害の発生や飛散の恐れがあるので、除草剤の散布は避けてください。
 - ウ 散布前に必ず使用上の注意事項をよく読み、使用方法や使用上の留意点を守りましょう。